

題材 「3年とうげ」 ○○時間中の第3時

(1) 学習のねらい

挿絵の像について不思議に思い、三年峠にさらに興味を持ち知りたいと思っていた子供達が、その像が「神社の入り口や街の境界に建てられる守り神」であることを知ることを通して、挿絵の像が怖いものではなく守ってくれるものであることに気づき、それなのに守り神の横でこけてしまったおじいさんの気持ちを本文に即して考えることができる。

(2) 本時の学習材

挿絵の像（守り神）の意味

○前時、挿絵の像の意味について知りたいとおもっていた子供達が、像の本来の意味を知ることによって怖いものではないということに気づくだろう。そして、その守護神の横で転けてしまったおじいさんについて目を向けるところで、学習材を提示する場を設ける。

○本学習材は、守り神の横で転けてしまった際のおじいさんの気持ちを考えるものである。

挿絵の像が怖いものではなく守ってくれるものであると気づいた子供達は、守ってくれるはずの像の横で転けてしまったおじいさんについて考えていくだろう。「像に何か呪いがかかっているんじゃないか」と考えていたY君は像が守護神であることがわかり、違う部分に着目していくだろう。このように、挿絵の像が怖いものではなく守ってくれるものなのだとすることを学んだ上で、それなのに守り神の横で転けてしまったというおじいさんの気持ちを読み深めていくことができる。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握	1 挿絵の像は何なのか明らかにする。	本文を読む ・石って呪いの石かな ○像が気になる 学習問題 挿絵の像って何なのだろう ・呪いをかけるものだと思う ・神様なんじゃないかな ○守ってくれる神様なんだ！お守りみたいだね	10'	・本文を読み本文の中で気になったところを聞く ○前時に像についてみんなが気になっていたことを振り返る ・実際にある守護神の像を見せて、いくつか子供の意見が出たところで説明する。
	展開 守り神が近くにいたのに転んでしまったおじいさんの気持ちはどんなだろう。	学習課題		学習材 挿絵の像（守り神）の意味
終末	2 転けてしまったおじいさんの気持ちを読み深め共有する	・真っ青になったよ ・おいおい泣いてるから悲しんでる ・誰とも話したくないぐらいくらい気持ち ○おじいさんが病気になっちゃったのは、守り神がいるのに転けてしまって恐ろしくなってご飯も食べなくなったからなんじゃない。	20'	・挿絵の像について理解した上で、おじいさんに焦点を当てていく ○学習材を提示してそれぞれの意見を考える時間を設ける。
	3 本時を振り返り、学習カードに記述する。	・おじいさんは言い伝えを知っていたからもっと恐ろしくなったんじゃない ・本当に転んだ人がいたから守り神が置かれたのかな ○言い伝えも他の人を危険から守るため守り神も同じなんじゃないかな。	10'	評価 転けてしまったおじいさんの気持ちを読み深め流ことができる ○おじいさんが病気から治ったのはなんでかな？